

富山にはどんなヘビがいる？

南部 久 男

ヘビは嫌われ者の代表ですが、秋は田んぼの稲刈りが終わり、田んぼの畦や道路でヘビをよく見かける季節です。遠足やハイキングに出かける機会も多くなり、山道でヘビに出会うことも増えてきます。ヘビに出会った時にはびっくりしますが、特徴を知っておくと、毒のあるヘビなのかどうか分かり事故も防げます。富山県にはどんなヘビがいるのでしょうか？

富山県には8種類のヘビがすんでいる

町の公園や川原の土手にはアオダイショウ（図1、2）やシマヘビ（図3、4）が、山地にはこれらの2種類の他にヤマカガシ（図5、6）がよく見られます。山地には他にマムシ（図7）、ジムグリ（図9、10）、シロマダラ（図11）、タカチホヘビ（図12）がすんでいます。ヒバカリ（図8）は丘陵や平地の水田の周りで時々みられます。これらの8種類のヘビの内、マムシとヤマカガシには毒があります。

よく見るアオダイショウとシマヘビ

アオダイショウ（図1）とシマヘビ（図3）は誰でも出会ったことのある、よく見かけるヘビです。アオダイショウは山地にもいますが、平野部の河川の土手や家の周りでもよく見かけ、家にも住みつきネズミや小鳥を食べて生活しています。全身灰色の大きなヘビで、全長は110～190cmです。

シマヘビは名前のように体の頭から尾にかけ4本の黒い模様のある、全長80～200cmのヘビで、トカゲやカエルなどを食べます。山地や平地で見かけます。シマヘビは、追い詰めたりすると体をS字状にし鎌首^{かまくび}をもたげて向かってきくことがある気性の荒いヘビです。

変わった模様をしているためマムシではないかと科学文化センターに持ち込まれることがあるヘビがいます。実は、アオダイショウの子供のことが多いのです（図2）。アオダイショウもシマヘビも子供の時は親と全く違った色と模様をしています。アオダイショウの子供にはハシゴのような模様があり、家の玄関を開けておくと時々進入してきて大騒ぎになることがあります。私の家でも玄関から進入し、物置に入りこみ取り



図1 草原でひなたぼっこをしているアオダイショウ。4月で気温が低く、動きはまだにぶい。



図3 草原のシマヘビ。首を持ち上げている。



図5 ヤマカガシ



図7 水辺にいたマムシ

出すのに苦労したことがあります。

シマヘビの子供（図4）は茶色の体の背に短い横の模様が並び、親にみられるような縦の線はありません。



図2 玄関にあらわれたアオダイショウの子供

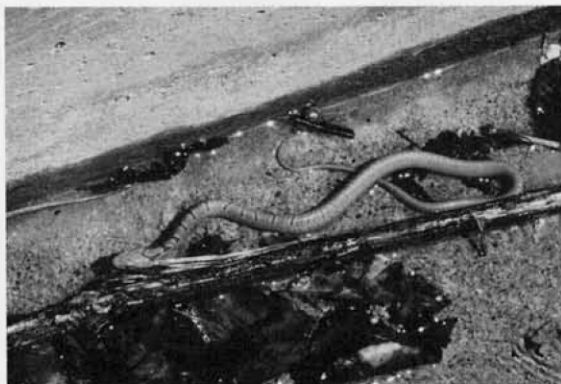


図4 シマヘビの子供



図6 首の黄色が目立つヤマカガシの子供



図8 首の淡い黄色の線が目立つヒバカリ

毒のあるのはマムシとヤマカガシ

マムシ（図7）は日本の代表的な毒蛇です。全長40～65cmの短く太い体で、丸い模様があります。カエルやネズミを食べる夜行性のヘビです。口の前には注射針のような毒牙^{どくが}があり、かまれると毒が注入されます。目と鼻の間には穴があいていて、穴の奥の膜^{せき}で赤外線^{がいせん}を感知することができ、夜でもネズミ等が出す赤外線を感知して捕まえることができます。

ヤマカガシ（図5）は70～150cmで、黒、黄色、赤の模様があるヘビで、アオダイショウやシマヘビとともに山地でよく見かけます。子供のヤマカガシ（図6）は首の周りの黄色がよく目立ちます。ヤマカガシは毒のないヘビと思われがちですが、奥歯の付け根と首に毒線^{どくせん}があります。深くかまれると奥歯の付け根の毒腺から牙をつたって毒が傷口から入ります。ヤマカガシの毒牙は口の奥にあり、短いため、毒が大量に注入されることはありませんが、かまれてなくなった方もいますので注意が必要です。首の皮膚の下にある毒腺^{えんしやう}も破れて中から毒が飛び散り目に入ると、炎症を起こすことが知られています。

その他のヘビ

ヒバカリ（図8）は40～60cmの小さなおとなしいヘビで、口の後ろから首にかけ淡い黄色の線があるのが特徴です。田んぼの周りなどに見られ、カエルやミミズを食べて生活しています。ジムグリ（図9）は70～100cmの背中が茶色っぽい色で、腹には黒く四角い模様が並んでいるのが特徴です（図10）。山地の森林で生活し、よく穴にもぐります。富山県ではほとんどのヘビは標高が1500mくらいの山地までしか見つかっていませんが、ジムグリは例外で、標高2992mの立山の雄山頂上で見つかったことがあります（図13）。

シロマダラ（図11）は30～70cmの白と黒の模様のある夜行性のヘビで、トカゲや小さなヘビを食べます。山地で時々みつかります。タカチホヘビ（図12）はあまり発見されませんが、全長30～60cmの紫色がかった褐色の光沢のある美しいヘビです。背の中央に1本の黒い線があるのが特徴です。山地の地中でくらし、ミミズを食べています。

ヘビは変温動物ですから日当たりのよい場所でひなたぼっこをして体温調節をしています。出会っても人の足音に驚いて逃げる人が多いのです。いじめたり、近づいて足でふんづけられない限りめったにかまれ

ることはありません。しかし、マムシやヤマカガシには毒がありますので、どんな特徴を持ったヘビなのか覚えておくことが大切です。



図9 全身茶色のジムグリ (福田保氏提供)



図10 ジムグリの腹 (四角い黒い模様がある)



図11 白と黒の模様のあるシロマダラ。



図12 背中に黒い1本の線があるタカチホヘビ

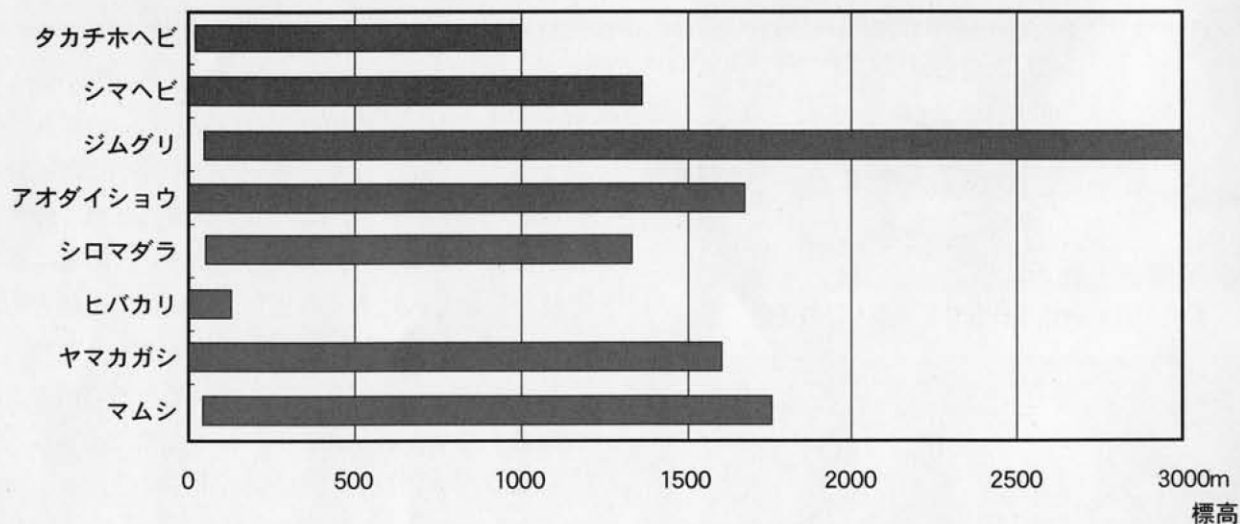


図13 富山県のヘビの垂直分布 (すんでいる標高の範囲)

「とやまと自然」第25巻 第3号 (秋の号) (通巻99号) 平成14年10月20日発行
 発行所 富山市科学文化センター 〒939-8084 富山市西中野町1-8-31
 TEL 076-491-2123 FAX 076-421-5950 <http://www.tsm.toyama.toyama.jp>
 富山市天文台 富山市三熊49番地-4 TEL 434-9098 FAX 434-9228
 発行責任者 布村 昇 印刷所 あけぼの企画社 TEL 424-1755